沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要（Bull. Mus., Okinawa Pref. Mus. Art Mus.），№ 4. pp. 85－100，2011

民具体験学習プログラム変更の試み

池原 盛浩[1)]

Improving the work-study program of the traditional articles

Morihiro IKEHARA[1)]

はじめに

沖縄県立博物館·美術館には､毎年９月に入ると民具体験学習実施のために、近隣の小学校より４年生が数多く来館する。

これは社会科の単元に地域の博物館を利用し、今と昔の生活の変容を学ぶ学習内容があるためである。博物館に収蔵されている学芸資料（民具）を活用し、机上では感じられない本物にふれるこの民具体験学習は毎年好評である。

本稿では、これまでの学習プログラムの変更にともなう当館の諸取組みと民具体験学習の実際を紹介する。

学習プログラムの変更

⑴ 前年度の反省

平成21年度は52校の民具体験学習実施があった。課題として以下の３点があげられる。

ア　効率的な民具体験学習実施のための、時間分等を考慮したプログラムの検討。

イ　ボランティア員の指導充実。

ウ　博物館を利用した学習のあり方（民具体験学習プログラム）の理解のための、教師向け説明の充実。

特に、学習プログラムの内容に関しては、館側から提案するメニューにほぼ沿った形で実施されたため、学校側の希望にすべて応えられないことがあった。

ボランティアの支援に関しても、子どもの視点に沿ったガイド等が不十分で、ボランティア（大人目線）からの一方的な説明ガイドが行われていたと思われる。

⑵ 学習プログラム変更の必要性

平成22年度は、民具体験学習のよりよい活用のために、学校の要望を取り入れ、子どもにとって有意義な学習の場を提供することを目標として、民具体験学習の見直しを行うこととした。

具体的には前年度までの実績を引継ぎながらも、以下の事柄を考慮しながら学習プログラムの変更に取り組んだ。

・教師が、生徒の実態に沿って学習内容を組めるように、プログラムに選択性を取り入れる。

・ボランティアに対し、子どもの目線（視点）に沿った発問と学習の目的を考えていく講習会を実施する。

・教師に博物館を利用した学習のあり方を通知するため、下見での説明を充実する。

平成22年度に、この民具体験学習の実施の時期に合わせて採用した重点雇用の２名の協力の下、この学習プログラムの変更を行った。

学習内容の選択性へ

民具体験は当館の屋外にある民家展示室周辺で行うものである。ところが、館の所有する民具の数等の問題から、複数のクラスが一斉に行うことが出来ない。そのために館内の常設展示解説と民具体験を組み合わせた、いわば内と外の学習内容をローテーションするプログラムが行われる。

[1)] 沖縄県立博物館・美術館　〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan.

平成21年度までは、ほぼ館側からの指定の学習プログラム（例えるなら定食メニュー）で実施されていた。しかし、民具体験を希望する学校は、生徒数や学級数もすべて異なり、教師からの要望も様々である。さらに、特に注意を要する子どもが学級にいる際には、館側からの指定プログラムでは対応できない場面も出てくる。

これらに対する改善策として、館で提供できる民具体験のメニューを整理し、教師の側から体験のメニュー（学習内容）を選択できるように（バイキング形式）した（資料１）。

また、これまで館内を解説するメニューに、自然史展示部門の解説ガイドを組み込んでいたが、民具体験学習は社会科領域であることから、理科的内容のこの解説ガイドを外した。

ボランティアへの講習

本館では学校団体の受け入れにあたっては、博物館ボランティア員に対応をお願いしている。しかし、ボランティアの学校団体への支援のあり方等の指導講習については不十分な点が多く、特にこの民具体験学習の解説ガイドは、ほとんどボランティア自身の力に任せられていた。

そこで、ボランティアに対し、民具体験学習のプログラムの変更とボランティアに求める学校団体への支援のあり方について通知する説明会を開催した。

ボランティア向けの説明会の様子

この説明会では、①先生にメニュー（学習内容）を選択させること②体験学習の目的③ボランティアの役割についての三つを重点に説明した。（資料２）

さらに９月末からのボランティア対象の専門講座の中では、民具体験学習についての講習日程を組み入れ、ボランティアの支援のあり方、特に“発問”指導を行った。

展示模型を使った発問の指導会

子どもに寄り添い、話術による興味関心の引き出し方や、教えるのではなく考えさせることの重要性を伝えた（資料３・４）。また、ボランティアの自主的活動である民俗勉強会に教育普及担当の学芸員が講師として参加し、民俗展示室での解説ガイドの例を実践して見せた（資料５・６）。

民具体験学習の実際

平成22年度は９月から12月までに27校、３月に３校の計30校の実施があった。

学校への支援を終えた後、ボランティアの反省会を毎回行っているが、当初はプログラム変更にともなう苦情的な意見が多かった。しかし、今回のプログラム変更は、ボランティア自身の研鑽により解決できる点も特徴であり、次第に反省会での苦言が減り、逆にこの学習プログラムへの建設的な提案意見等が増えていった。

ボランティアの声を聞き入れ、回を重ねるごとに工夫（パートごとのマニュアル例の作成や時間配分、屋外での交代の合図の方法等）を加え、ボランティアとともに作り上げる学習プログラムとなっていった。特に、重点雇用２名の協力は、現場でのボランティアに対する直接指導に大変効果的なものであった。

学習プログラム変更の成果と課題

教師が生徒の実態に合わせて学習メニューを選択できるようにしたことで、学校の要望ごとにすべて異なった学習プログラムができた。

下見では、当日引率する教師全員の参加を原則とした説明会を実施したことで、体験学習についての共通理解と当日の学習の流れのイメージ化を図ることができた。

さらに、教師に対して行った事後アンケートでは（資料７・８）、特に学校で定めた学習のねらい（目標）の達成状況は97％に達し、今回の学習プログラムの変更は、十分に成果があったと考える。

ボランティアに対しては、単なる知識伝授の解説ではなく、発問を重視することの重要性を伝える講習会を実施したことで、自分なりの研鑽で解説ガイドの充実が図られるような仕組みに転換できた。展示室の解説ガイドでも、次の出番の際には、自分なりに話し方を変えたり、写真資料を付け加えたりするなど、ボランティア自身で工夫改善を行う姿が見られた。さらに民俗分野の勉強会がより盛んになり、子どもからの質問を想定した解説ガイド勉強会が毎月実施されるなど、*ボランティアの自主的で積極的な活動が始まった。

次年度に向けて、学校への博物館を利用した学習のあり方の通知とボランティアの資質の向上の為の研修会の充実が課題であろう。

＊ボランティアの自主的で積極的な活動

民俗展示室のガイドブック完成にともない、学校団体を想定した、“発問”の自主勉強会の開催や子どもたちとの交流の楽しさの実感から、解説ガイドへ挑戦する人が増えるなど、ボランティア活動に対する意欲の向上等が見られた。

子ども達を前に、民具の解説を行うボランティア

（資料１）　**博物館を利用した** 民具体験学習について　　県立博物館教育普及

○小学校３・４年生社会科　「昔の道具を体験しよう」「きょうどしりょう館をたずねて」

・地域に残る古い道具について～　知る・ふれる（感じる）・考える・調べる

・昔の道具の使われ方（当時の暮らしの様子、生活の変化）～　考える、調べる

＊児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる

～引率の先生が(博物館で)行う授業です！

★博物館が提供できるメニュー

A：映像の視聴＝「琉球の風物」（日本民藝館制作。昭和 14 年頃の那覇の市場などの風景。モノクロ映像）

＊72 年前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

＊先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行ないます。

＊博物館利用のｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝと合わせて 20 分で可能

B：民具解説（民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます）　15分間

C：民具体験

30 分で３種、45 分で５種の体験が可能。ﾍﾟｱで活動。選択した数と同じｸﾞﾙｰﾌﾟでﾛｰﾃｰｼｮﾝで体験する

1) 運搬に関する道具＝　バーキ↓　ガンシナ↓　ティール↓

（魚や作物の運搬等で使用）

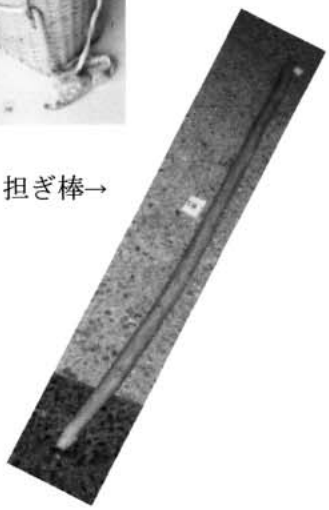
2) 運搬に関する道具＝　オーダー↓

（薪の運搬等で使用）

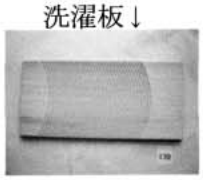
3) 運搬に関する道具＝　ターグ →

（井戸水の運搬で使用）

担ぎ棒→



4) 洗濯に関する道具＝　洗濯タライ↓　洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝　アダン葉サバ↓　クバンヌー↓　クバガサ↓

（畑仕事等で使用）

D：「①黒砂糖づくり」と「②貢納布づくり」のミニチュア模型を使い、昔の民具の使われ方を解説します

＊一か所７分×２か所＋移動＝15 分

E：民俗展示室での展示品解説　①畑の道具　②田んぼの道具　③海の道具　④台所周辺道具　→2 か所選択

＊一か所７分×２か所＋移動＝15 分

（資料２）　**○ボランティアの皆様へ**　　県立博物館教育普及

民具体験学習の在り方が変わります！

1　学校の先生に、メニューを選択させます！

→先生に、Ａ～Ｅのメニューの中から選んでもらいます。

☆準備したﾒﾆｭｰに従ってもらう定食方式から、自分で選ぶﾊﾞｲｷﾝｸﾞ方式へ！

☆先生が博物館で授業を進めます!!　先生がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ員を活用します!!

2　授業のねらいをよりハッキリさせ、何のための(体験)学習なのかを先生に考えてもらいます！

・民具体験だけの授業ではありません！　*→民具体験が目的にならないように!!*

・学校の先生が博物館で行う授業です!　*→先生がリードできるようにします!!*

↓学習（授業）のねらいは　　*－先生に主導権をもたせます!! －*

①　地域に残る古い道具について…

②　昔の道具の使われ方（当時のくらしの様子、今と昔の生活の変化）について…

子どもが～知る、ふれる(感じる)、考える、調べるように支援するのが、博物館の役目です

3　ボランティアの役割について

○博物館が提供できるメニュー　　Ａ～Ｅ　各１５分（内容１３分・移動交代２分）

ＡとＢは、文化の杜が行います。

Ｃ：民具体験＜従来のように昔の道具体験をお願いします＞

＜ゆとりを持たせた組み方にします。１コマ（１５分）で１～２つ＞

Ｄ：常設展示室の「黒砂糖づくり」と「貢納布作製」のミニチュア模型の解説をお願いします。

＜昔の生活の様子を紹介するために行います。＊道具(民具)の解説、今と昔の比較＞

＜一つに５分程度の解説と２～３分の質問タイム＞

Ｅ：民俗展示室での、ボランティアによる展示品解説

＜従来のように民具の解説をお願いします。説明する民具を絞り込みます＞

☆誘導ボランティアの役割＝

従来通りの順路案内に加え、タイムキーパーの役目をお願いします。

（資料３）　**小学校4年生社会科民具体験学習に対する**

博物館ボランティアによる一学習支援のポイント

教えるのではなく － 考えさせる

博物館教育普及

これまでの体験と経験で身につけた、抱負な知識！

来館した子ども達に、*伝えたい（伝えなければならない）*

教えたい（多くのことを知ってもらいたい）

ーその思いは間違ってはいません。

でも、来館した子ども達を指導するのは先生です。

★博物館の役目は、子ども達に(できるだけ)本物の品に出会わせ、

そのモノ(品)と子ども達を結びつけることです。

ボランティアはいわゆる仲人のようなものでしょう！

結びつけることとは、子どもがモノに興味を持つように仕向けること。モノのすばらしさを必死に紹介しても、出会わせ方がまずければ子どもは良い印象を持ちません!

仲人役のボランティアとしては、子どもが興味を持つように、モノとの出会わせ方の 話術を高める こと。

知識（情報）を伝えるのは、

子どもが興味を持ってからでも遅くはありません！

子どもが考える楽しさを実感できるガイドをお願いします!!

（資料４）

民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉

A映像解説　昔の沖縄の**風景を観る**・昔の**人を観る**

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

B民具解説　民具に**ふれる・素材を考える**・先人の**技を考える**

…体験する民具の解説（名前/使用方法…知識）ではありません！

C民具体験　道具（民具）に**ふれる 感じる**・使い方を考える・使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

D展示模型解説　昔の道具を**発見する・観る**・使用方法を**考える**

今の生活との**違いを考える**

…模型が表す製作方法や歴史を知るのではありません！

E民俗展示品解説　昔の道具を**観る**・使用方法を**考える**

今の生活との**違いを考える・知る**

…単なる民具の解説（名前/使用方法…知識）ではありません！

A·Bは指定管理者が　C·D·Eはボランティアが　担当します

発問によって子どもに考えさせる―子どもの興味を引き付けるようにします

Cの着衣体験に、保護者の参加をお願いします

誘導ボランティアさんの 役目　　１クラスに２名配置します

全体（流れ）を観る　時間を把握する

時間どおりに進める・時間調整をする

先生と連携する―相談し提案もする

子どもの安全を図る！

（資料５）

小学校四年社会科授業：博物館を利用した民具体験学習

D「ｻｰﾀｰﾔｰ」と「貢納布作製」のミニチュア模型解説***(例)***

（体験学習メニュー）

A･･･画像の視聴　B･･･民具解説　C･･･民具体験

D･･･「サーターヤー」と「貢納布作製」のミニチュア模型解説　E･･･民俗展示室でのボランティアによる展示品解説

「サーターヤー」模型解説

先生＝ここでは、2つの模型についてお話をしていただきます。〇〇さんのお話をしっかりと聞きましょうね。

では、〇〇さん、お願いします！

*ボランティアの **発問(例)***

・〇△小学校のみなさん、おはようございます。私の名前は〇〇といいます。

・ここでは、昔使われていた道具について、模型を見ながらお勉強をしていきます。

今いる場所で、だいたい５分、次に向こう側にある模型の場所に移動して、そこでも５分。

合計で１０分ぐらいの短い時間ですが、皆さんと楽しくお勉強ができたらいいなと思っています。

・ではこのガラスケースの中にある人形を観て下さい。　何をしているところかな～？！

児童＝草をかっている！　馬で何かしている?!　砂糖を作っている・

・そうだね～！　皆良く見てくれましたね!!　これは２００年ぐらい前の、沖縄の黒糖づくりの様子を、人形で復元したものです。

・では次に、ここで使われている道具を見つけてほしいんだけど―。どんな道具がある??

児童＝カマを使っているよ！　水をいれる物がある!!　・・・・

・そうだね～！　皆良く見てくれましたね!!　では皆で確認して行きましょう!!

・まずサトウキビを刈り取るのはカマですね。次に桶…。子ども達が体験する道具2つを取上げる。

・この中には今でも使われている物がありますか？*今と昔の道具の使われ方の変容を子どもに考えさせるようにする。*

・では次の場所に移動しましょう――――！

（資料６）

「貢納布作製」模型解説

先生＝ここでは、さっきの黒糖づくりと違った道具をみんなでさがしてみましょうね！

では、○○さん、お願いします！

ボランティアの発問(例)

・○△小学校のみなさん、さっきの黒糖づくりの模型で色々な道具を勉強しましたが、今度は貢納布といって、昔琉球の王様たちが身に着けていた綺麗な布ができるまでを復元した模型です。

・この中にたくさんの人形が働いていますが、畑から植物を収穫して――綺麗な布ができるまで、どんな道具が使われていますか？

・ではこのガラスケースの中にある人形を観て下さい。

児童　＝草をかっている人の所で○○がある。

△▼のところに○○がある。

・そうだね～！　皆良く見てくれましたね!!　では皆で確認して行きましょう!!

・まず狩り取った植物を入れる桶ー。次に――*順を追って民具を確認していく*

・この中には今でも使われている物がありますか？*今と昔の道具の使われ方の変容を子どもに考えさせるようにする。*

・さっきの黒糖づくりの所でもあったように、昔の人は、今の皆さんと同じように、様々な道具を使って生活をしていました。でも、今と違うところは？*ー子どもの声を拾えたら良いがー*

そうですねーーーー今は技術が発達して電気を利用した便利な道具がいっぱいありますが、昔はすべて手作りの道具で、その道具を、手入れをしながら、大切に使っていました。

・今日皆さんは、昔の道具のお勉強のために、この博物館に来ましたが、この模型を観て、昔の道具や昔の生活の様子をちょっと考えることができましたか？

・これで私からの説明を終わります。

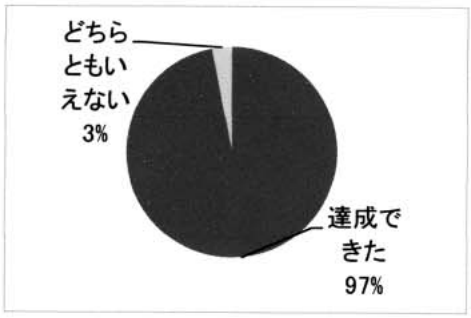
先生＝ボランティア員の○○さん、有難うございました。
では、少し時間があるので質問の時間にしたいと思います。質問のある人いますか？

～質問があった場合には、短めに答える

（資料７）　民具体験学習（事後）アンケート9月～12月（全体集計）（H22.9.9～H22.12.22）

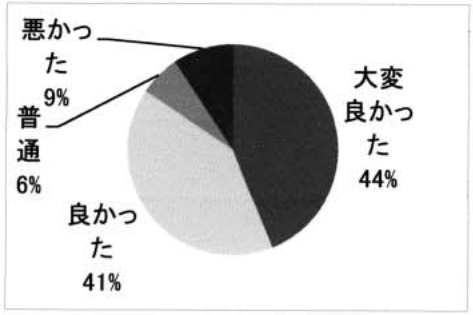
質問1：今回の学習を終えて、事前に学校側で定めていた学習のねらい（目標）は達成出来ましたか？

	総数	32	
①	達成できた	31	96.9%
②	どちらともいえない	1	3.1%
③	達成できなかった	0	0.0%



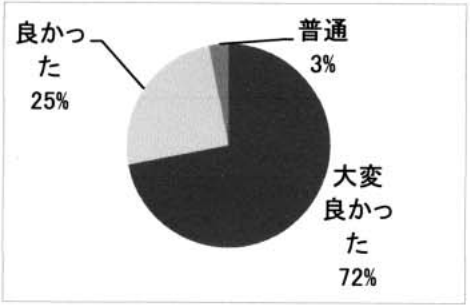
質問2：事前の打ち合わせ・館内の下見はいかがでしたか？

	総数	32	
①	大変良かった	14	43.8%
②	良かった	13	40.6%
③	普通	2	6.3%
④	悪かった	3	9.4%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



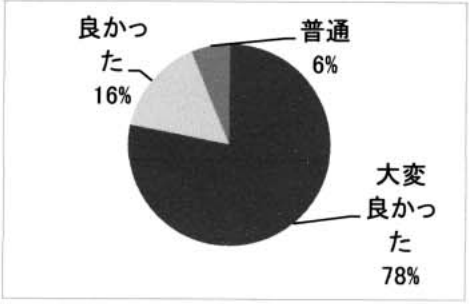
質問3：体験当日の博物館側の対応はいかがでしたか？

	総数	32	
①	大変良かった	23	71.9%
②	良かった	8	25.0%
③	普通	1	3.1%
④	悪かった	0	0.0%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



質問4：博物館を利用した学習は子ども達にとって有意義なものになりましたか？

	総数	32	
①	大変良かった	25	78.1%
②	良かった	5	15.6%
③	普通	2	6.3%
④	悪かった	0	0.0%
⑤	大変悪かった	0	0.0%



（資料８）　民具体験学習（事後）アンケートまとめ分析結果

質問１：今回の学習を終えて、事前に学校側で定めていた学習のねらい（目標）は達成出来ましたか？

今年度の民具体験学習では、平成21年度に行われていた、総合博物館の特色を活かしたプログラムに変更を加え、教師が生徒の実態に合わせてメニューを選択し学習プログラムを組み立てることに取り組んだ。

今年度の民具体験学習プログラムがスタートして間もない、9月のアンケート結果では「達成出来た86%」10月～12月にかけては「達成出来た100%」と、月を重ねるごとに好結果の推移が見られた。民具体験学習のねらいにポイントをしぼった解説・体験の創意工夫、ボランティア・スタッフの日ごろの研鑽の成果と言えよう。

質問２：事前の打ち合わせ・館内の下見はいかがでしたか？

9月のアンケート結果は「良かった43%」「悪かった43%」という結果であった。悪かった理由に挙げられていた点は、下見は良かったが、夏休み後の打ち合わせで行った内容を何度も「電話連絡」で確認されるのは困ったという点であった。

10月～12月にかけては9月の反省点を活かし、下見後の連絡は電話・FAXを使用し、細かく説明をしたことで、教師の認識が増し「大変良かった・良かった」の回答の割合が上昇した。

質問３：体験当日の博物館側の対応はいかがでしたか？

質問3については、「大変良かった」・「良かった」の回答が大きな割合を占めている。その中でも、ボランティアに関しては、活動（解説・誘導・民具体験サポート）に対して感謝の声が多く寄せられており、学習をスムーズに進める為にもボランティアの存在は重要であることが分かる。

また、9月と比較して12月までに「大変良かった」の割合が増えたことから、ボランティアやスタッフが学習をサポートする中で、児童に合った対応（説明や誘導の仕方）を心がけ変化していったことが伺える。

質問４：博物館を利用した学習は子ども達にとって有意義なものになりましたか？

質問4については、月を重ねるごとに「大変良かった」の割合が上昇しているのが分かる。その理由として挙げられている回答の中で多いのは、「実際に体験することで学習意欲の向上につながった。」という回答である。学校側は机上では出来ない学習を求めて博物館を訪れる為、実際に見て触れる事のできる民具体験は児童の学習に効果的だと考えられる。

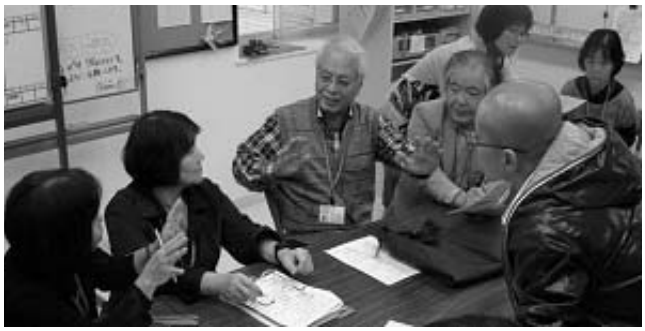
■ボランティアの直前ミーティング

↑ボランティアとスタッフの全体ミーティング

情報の共有：学習プログラムの読み合わせに使用する書類。

↑パートごとのミーティング

↑誘導ボランティアミーティング（１クラス２名）　体験学習の要となる。



←解説ガイド（DとE）のミーティング

■民具体験：先生とのミーティング（児童はオリエンテーション中）

■民具体験：オリエンテーション（Aの画像解説を含む）

オリエンテーション「見学の約束」

A：「画像解説」：昭和初期の那覇の風景など

■民具体験B：民具解説

B：民具解説：民具の紹介

B：民具解説：クバの葉を材料に作った道具の説明
（素材理解）

■民具体験C：運搬に関する道具〈バーキ・ガンシナ・ティール〉

・運搬に関する道具〈ターグ〉

・洗濯に関する道具〈洗濯板・ターレー〉

・運搬に関する道具〈オーダー〉

・着衣に関する道具〈クバガサ・クバンヌ・サバ〉

■民具解説D：民具の使われ方の紹介

総合展示室にて

貢納布の模型を使い民具の使われ方を解説

サーターヤー模型で〈カマ・タークの使われ方を解説〉

■民具解説E：民俗展示室にて昔の民具の使われ方を解説

沖縄で昔、使用された民具についての解説が行われる。テーマは、
①畑仕事
②海人の仕事道具
③田んぼ仕事道具
④民家にて居間と台所の現在との比較

教科書の「今と昔のくらしの変化」にある生活用品の観点から、アイロンについての解説を希望する学校が数校あった。

前島小学校の例（親子学習形式）
・親子で調べ学習をしている様子
・この際ボランティア解説は一斉に行う形態は行わず､質問があれば答える待機型となる。